

2. 低炭素社会の具体的イメージ（5）

— 森林・農業 —

低炭素農地・森林から 供給される財・サービス



森林



農地



木造建築物の需要増に
応じた木材生産



自然を慈しむ
場を提供



稲わら、間伐材を使用した
バイオ燃料の供給



CO2吸収源



「顔の見える」
農作物の生産



休耕作地を活用した
エネルギー生産

行動 Behavior

- ・地域の風土・特色に根ざした、多様で「顔の見える」生産・消費活動により、安心・安全な第一次産品を供給している。
- ・都市住民に対する自然を慈しむ場が提供され、休暇中の長期滞在者が増加している。

技術 Technology

- ・農業経営規模の拡大、効率的な生産により、一次産品の国際競争力の強化。食料・木材自給率の向上。CO2吸収源を維持している。
- ・休耕作地をエネルギー製造地域（エネルギー作物、太陽光発電プラント、ウインドファーム）として利用している。
- ・稲わら、間伐材などセルロース系の材料をバイオエタノールとする技術が普及している。
- ・最先端のモニタリング技術も森林の維持管理に貢献している。

活動の場 Field of activities

- ・あらゆる一次産品がどこでどのように作られたかを把握することができるルールとインフラが整備されている。
- ・森や田園風景・山・海など地域固有の景観を重視し、適切に保全された自然が国民に豊かな生態系サービスを提供している。同時に農村文化が継承されている。

2. 低炭素社会の具体的イメージ（6）

－ まち －

大都市・中都市

- 人・資本の集積度が極めて高く、高付加価値なサービス業を実現。
- 道路は自転車・パーソナル移動体が安全に走行できるようにデザイン。
- 都市規模や既設インフラに応じて鉄道・バス・LRTを組み合わせた公共交通網が整備。
- 集合住宅比率が極めて高く、職場と住居は近接。
- 中心部は熱輸送管が整備され排熱を有効に活用。
- 「風の道」やオープンスペース、水辺が確保され、ヒートアイランドが緩和。

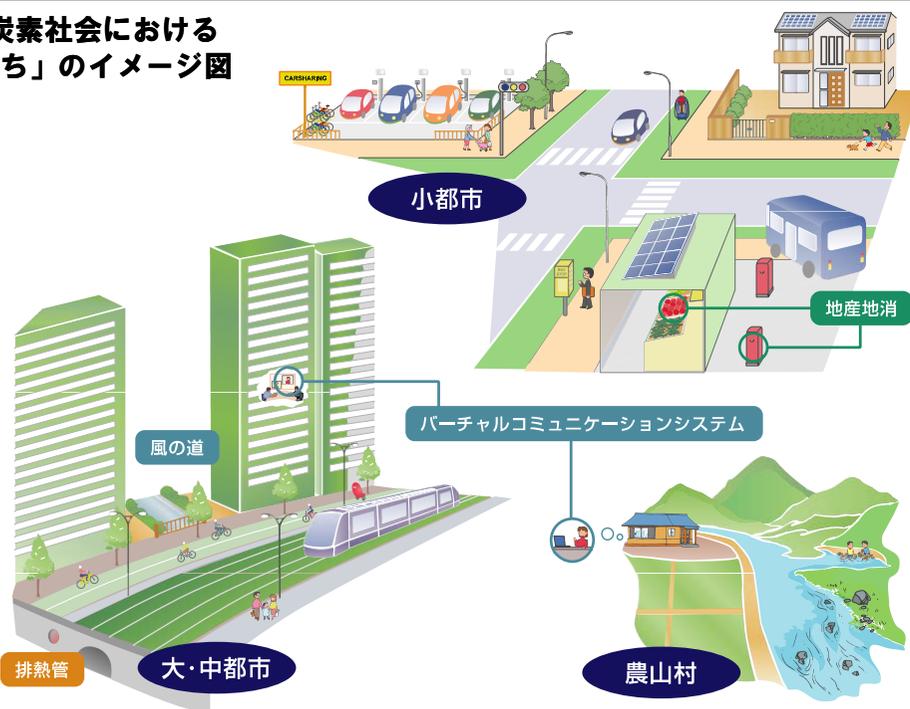
小都市

- 鉄道駅等が拠点となり、周辺に商業施設、居住地域がコンパクトに集積。
- ICTの進展により利便性が大幅に向上したバスが公共交通機関としての中心的役割を果たす。需要に応じて様々なサイズのバス運行。
- 都市部周辺には農地があり、地産地消が行いやすい環境にある。
- 従来は鉄骨建築であった中層の建築物についても木造の比率が高い。

農山村

- 農業経営規模の拡大、効率的な生産により、第一次産業は活性化。
- 移動については自動車の比重が高いが、自動車はモーター駆動もしくはバイオ燃料で走行。
- 住居・建築物のほとんどは木造。
- 林地では間伐材、農地ではエネルギー作物、農業廃棄物がバイオエネルギー供給源。
- 通信システムの高度化により、自然豊かな地域に居住しながらの就業が可能。また、医療サービスや教育の十分な享受も可能。

低炭素社会における「まち」のイメージ図



まちの規模と低炭素社会の構成要素

	大都市・中都市	小都市	農山村
交通	徒歩・自転車		
	パーソナル移動体		
	鉄道・LRT		
	バス		
住宅・建築物*	自動車（モーター駆動・バイオ燃料）		
	高層住宅・建築物		
	中層住宅・建築物（鉄）		
	中層住宅・建築物（木）		
エネルギー	低層住宅・建築物（木）		
	太陽光・熱		
	熱融通	風力	バイオエネルギー供給源

* 低層とは2～3階、中層とは4～7階、高層とはそれ以上と大まかに分類